

余別漁港（北海道積丹町）

●地域の特徴

当地域は、多種多様な水産物が水揚げされ、なかでもウニは地域経済を支える重要な資源となっている。また、“積丹ブルー”の海やウニ丼を求めて多くの観光客が訪れている。

その一方で、磯焼けによりウニの漁獲量が減少しており、また、ウニの高騰もあり観光客数が年々減少傾向である。

●取組に至った背景

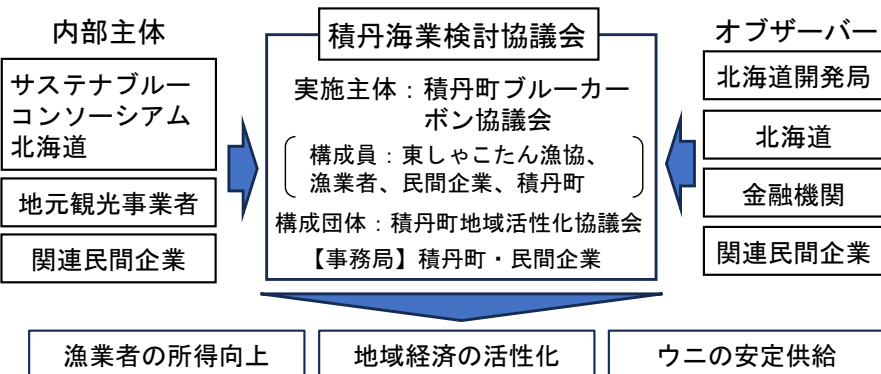
ウニの高騰が進む中で、地域の主力であるウニの価格抑制や安定供給体制の構築、消費者の理解促進等の対応は急務の課題である。

「海業」は、地域の懸案である漁業後継者の育成、海洋環境変化への対応等に取り組む絶好の機会であることから、余別漁港を核とし、ウニ殻を活用した藻場造成や陸上蓄養等の検討、漁業体験や環境体験教育の取組を開始した。

●取組の概要

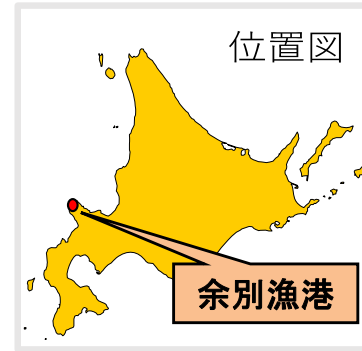
- ・活用類型：渚泊・体験・観光 等
- ・立地特性：地方・過疎地
- ・施設の状況：新たな施設を整備 等
- ・活用施設：漁港施設用地・泊地
- ・取組内容：中間蓄養や藻場造成支援、体験・教育機能を備えた海業拠点形成

●実施体制



●活用推進計画の概要

- ・計画策定予定日：令和10年3月
- ・実施予定期間：令和11年～
- ・漁港管理者：北海道
- ・事業目的：地元水産物の消費増進・交流促進
- ・事業概要：小学生等を対象とした藻場を活用した漁業体験教室等の実施・陸上蓄養や養殖、藻場造成の実施



期待される成果・効果

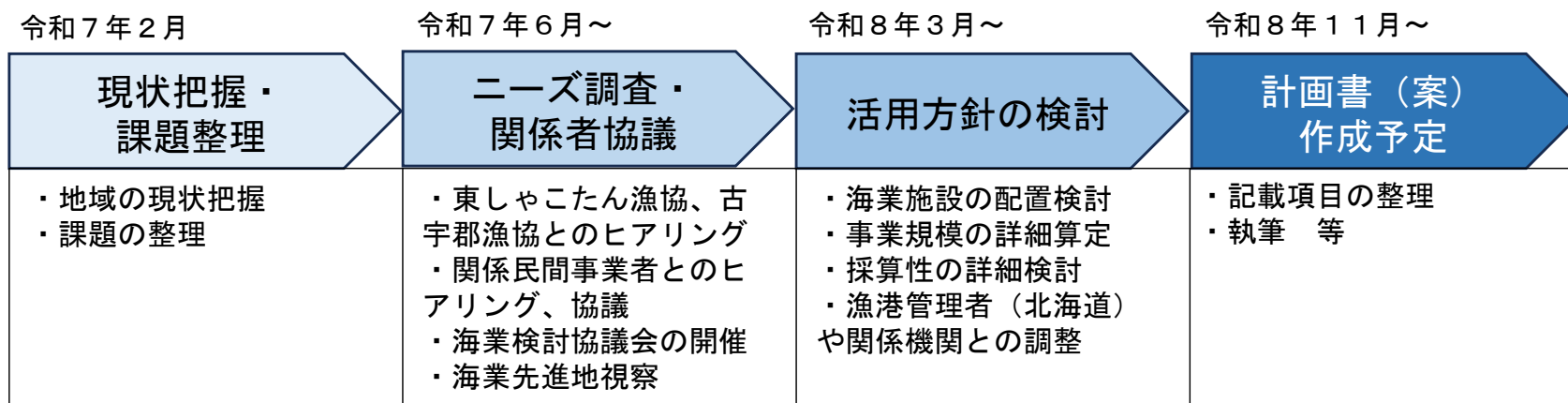
- （定量的効果）
- ・藻場造成面積：3ha（R6:1.5ha）、ウニ生産量：15t/年（R6:11t）、CO2吸収量：10t/年
- （定性的効果）
- ・地域への経済波及効果、水産業、観光業への好循環

余別漁港（北海道積丹町）

●参考情報

- ・ 特にありません

●活用推進計画策定のプロセス



計画策定予定
令和10年3月

●合意形成・関係者調整

- ・ 関係者の範囲：積丹町ブルーカーボン協議会（構成団体：東しゃこたん漁協、地元漁業者、民間企業、積丹町）、積丹町地域活性化協議会（構成団体：積丹町商工会・積丹観光協会・東しゃこたん漁協、新おたる農協・町内観光事業者2団体、歴史的建物保存団体、外部からの新規参入企業、積丹町）、サステナブルコンソーシアム北海道、北海道開発局、北海道、金融機関、関連民間企業
- ・ 『積丹海業検討協議会』を年3回（R7.7月、12月、R8.2月）、上記の関係者を参集して実施し、余別漁港での海業取組説明や進捗状況の報告、今後の事業の方向性について検討・協議した。
- ・ ウニの安定供給への対応については、関係者（特に漁協、地元漁業者、飲食店・宿泊業を含む地元観光事業者、仲買人）との合意形成が必要であるため、藻場造成の取組や陸上蓄養の検討について説明・協議を行っているが、ウニの価格や養殖ウニに対する意見があり慎重な検討が必要。出された意見等を踏まえながら、今後も引き続き、国（北海道開発局）や北海道を含め、関係団体や住民等への合意形成を図っていく。

●課題（原因分析を含む）及び今後の対応方針

- ・ 実施主体：積丹町及び関連の民間企業、漁港管理者：北海道、漁港整備：国（北海道開発局）であるため、今後、海業を実施していくにあたり、土地の貸付や漁港施設用地利用計画の変更、海業施設の配置計画など関係機関との協議が引き続き必要。

●他の漁港管理者へのアドバイス

- ・ 当地域の場合は、実施主体と漁港管理者が異なるため、事業の進捗状況や方向性など適宜、協議や情報共有が必要。